



五所川原市の  
文化財  
ガイドブック



# 五所川原市文化財マップ

## 五所川原地区



### ◆五所川原地区

- ① 旧平山家住宅
- ② 飯詰八幡宮本殿
- ③ 楠美家住宅
- ④ 妙竜寺七面大明神宮殿
- ⑤ 阿部家住宅
- ⑥ 梵鐘
- ⑦ 毛内翁土功之碑
- ⑧ 伊勢海利助追慕碑
- ⑨ 岩偶
- ④⑤ 千立山願昌寺念仏供養塔
- ④⑥ 御郡中惣絵図

### ⑩ 五所川原須恵器窯跡

- ⑪ 浅井獅子(鹿)踊
- ⑬ 漆川獅子舞
- ⑮ 五所川原立倭武多(立倭武多の館)
- ⑯ 飯詰獅子舞
- ⑰ 飯詰稻荷神社裸参り
- ⑱ ホロムイイチゴ
- ⑲ ヌマスギ
- ⑳ ツルマサキ
- ㉑ クロマツ
- ㉒ ケヤキ
- ㉓ シダレヤナギ
- ㉔ イチョウ
- ㉕ クロマツ

### ◆金木地区

- ⑳ 太宰治記念館「斜陽館」
- ㉗ 旧西沢家住宅
- ㉘ 津軽鉄道旧芦野公園駅
- ㉙ 川倉賽の河原地蔵尊
- ㉚ 嘉瀬奴踊
- ㉛ 金木さなぶり荒馬踊
- ㉜ 金木町玉鹿石

## 金木地区



### ◆市浦地区

- ㉜ 十三・湊迎寺の五輪塔
- ㉝ 相内・蓮華庵の板碑
- ㉞ 人面形浅鉢
- ㉟ 十三湊遺跡
- ㊱ 山王坊遺跡
- ㊲ 五月女菫遺跡
- ㊳ 相内の虫送り
- ㊴ 相内の坊様踊り
- ㊵ 十三の砂山踊り
- ㊶ 十三湖の白鳥
- ㊷ 磯松の一本松

- 有形文化財
- 史跡
- 民俗文化財
- 記念物
- 名木・古木
- 国指定
- 国登録有形文化財

## 市浦地区

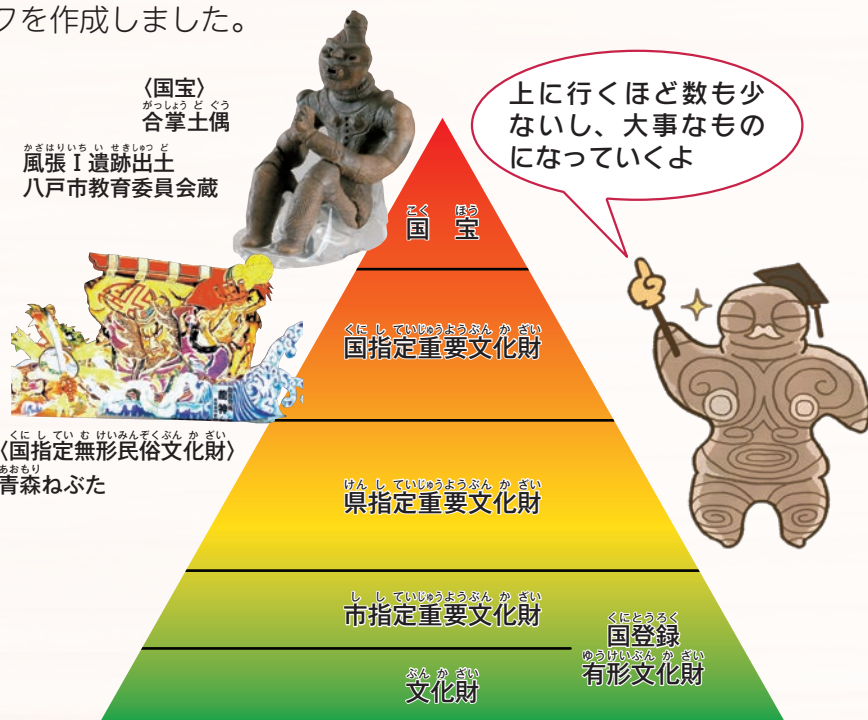


## はじめに

「文化財」という言葉を聞いて、皆さんはどのようなものを思い浮かべますか？立派なお城ですか？きれいな仏像ですか？そういったものもありますが、昔の人々が暮らしていた跡などの史跡や、国土の成り立ちを知ることができる地層などの天然記念物も文化財の仲間です。他にもまだまだ種類があります。

文化財は、先人たちが守り、受け継いできた地域の“宝”です。私たちの五所川原市にはたくさんの文化財があり、今を生きる私たちは、先人たちと同じように、しっかりと将来に引き継いでいく責任があります。

市内の文化財を皆さんが知ることで、地域に誇りを持ち、文化財を大切にしてくれることを期待して、文化財を紹介するガイドブックを作成しました。



## 有形文化財

有形文化財とは、建造物、絵画、彫刻のように形がある文化財のことです。今までに行ったことがある場所や見たことがあるものはいくつあるかな？



旧平山家は、約250年前に建てられました。当時農家では禁止されていた門構えが、弘前藩に特別に許されてつくられました。市内では一番古い建物で、ほぼ建てられた当時の姿のまま残っている貴重な古民家です。



楠美家は、明治25年ころに秋田県から材木を買い、秋田の大工さんに建ててもらいました。そのため、小屋組みに秋田地方の特徴が見られます。もともとは高野に建てられていましたが、平成18年に今の場所に移築されました。



だざいおさむね きねんかん しやようかん かな ぎ ちやうあき ひ やま  
太宰治記念館「斜陽館」(市内金木町朝日山)



しやう わ  
昭和のはじめころの斜陽館

ぜんぜん  
変わってないね!



斜陽館は明治40年に太宰治の父、津島源右衛門が建てた豪邸です。この家を建てるために必要だった金額は、約4万円(現在の金額で数億円)になります。

津軽地方には同じ時期に建てられた建造物で現在も残っているものが他にはないため、とても貴重な文化財です。



よう ま  
2階の洋間

がいけん じゆんわ ふう  
外見は純和風ですが、建物の中には当時では珍しい洋間やおしゃれな洋風階段のほかに、シャンデリアもあります。



洋風階段



けん せつ ちゆう  
建設中の斜陽館 (明治時代)

斜陽館の1階と2階を合わせた面積は約1,000㎡! 50mプールくらいの広さがあります。部屋の数19室、蔵は3つもあり、高さ約4mのレンガの塀で囲まれています。平成8年に旧金木町が買いとるまでは、旅館としても使われていました。



太宰治の父  
津島源右衛門

私が建てました!

きぞくいん ぎいん  
津島源右衛門は貴族院議員や衆議院議員をつとめたとても偉い人だったんだね



ゆうけいぶん かざい  
有形文化財



ほんしやう いづめ  
梵鐘 (市内飯詰)

この鐘は青銅製で正徳六年(1716年)に京都で造られました。日本海を北上し十三湊から長円寺へ運ばれ、地域の人々に守られてきました。もうひとつ鐘がありましたが運ぶ途中で嵐に逢い、十三湖沖に船が沈没してとうとう引き上げられませんでした。それ以来、この鐘の音は沈んだ鐘を慕うように鳴り響く...という伝説が伝えられています。



あいうちれんげあん いたび あいうち  
相内蓮華庵の板碑 (市内相内)



いづめはちまんぐうほんでん  
飯詰八幡宮本殿 (市内飯詰)

江戸時代のはじめころに造られた神社です。小さいですがバランスがよく取れた建物です。



えんぶん  
延文二年の板碑

相内蓮華庵には亡くなった人を供養する中世の板碑が5基残されています。そのひとつには延文二年(1357年)の年号が見えます。鱒ヶ沢町や深浦町にも同じ様式のものがあり、当時十三湖一带をおさめていた安藤氏の勢力が今の深浦町まで広がっていたことを示しています。



がんぐう まつのき  
岩偶 (市内松野木)

次は、あとで紹介する五月女范遺跡から見つかった人面形浅鉢です。こちらは顔だけですが、目や鼻・口がとても正確に作られています。岩偶と同じく全体が赤く塗られていました。そして、裏側は普通のお皿のようになっています。何のために作られたのか、気になる土器です。

ほくだよ!



左の写真は、岩(石)のできた人形で岩偶といひます。この岩偶は東峰小学校の近くにある観音林遺跡という今から約3,000年くらい前の縄文時代の終わりの遺跡から発見されました。大きさは約12cmで、体には渦巻模様があり、作られたときは全身を赤く塗っていました。岩(石)をこのように細かく加工するのは難しく、縄文人の器用さがわかります。

僕たちが3Dで見られるようになったよ!!



photo by T.ogawa

じんめんがたあさばち  
人面形浅鉢

# とうろくゆうけいぶん か ざい 登録有形文化財

登録有形文化財は、<sup>がいかん</sup>外観を大きく変えなければホテルやレストラン、資料館として自由に活用することができます。市内には、このような文化財が3件あります。



あべけしゅうたく はのきざわ  
阿部家住宅 (市内羽野木沢)

阿部家は通称「<sup>つうしょう</sup>大阿部」と呼ばれ、<sup>おおあべ</sup>五所川原の大地主でした。建物は100年以上前に建てられ、<sup>げんざい</sup>現在も阿部家の方々が住んでいます。

となりの<sup>どぞう</sup>土蔵も一緒に、登録有形文化財に登録されました。



つがるてつどうきやうあしのこうえんえき  
津軽鉄道旧芦野公園駅 (市内金木町芦野)



きやうにしざわ けしゅうたく かなぎちようあさひやま  
旧西沢家住宅 (市内金木町朝日山)

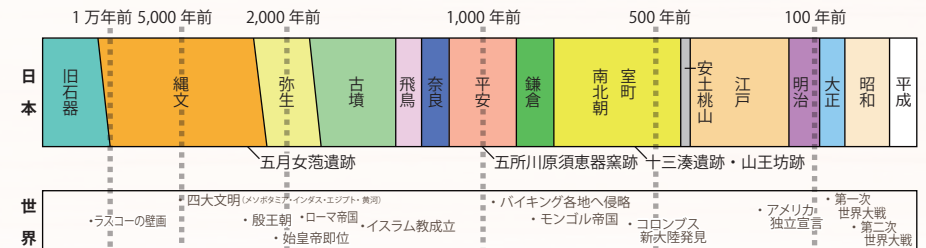
<sup>しやうやうかん</sup>斜陽館のとなりの旧西沢家は、<sup>しやうわ</sup>昭和11年に建てられ、旅館や飲食店として使われていました。

登録有形文化財になるためには、  
建ててから50年以上経っていることが  
必要だよ。

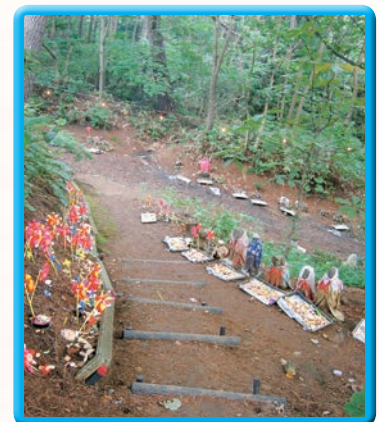
芦野公園駅のとなりにある喫茶「<sup>きつ</sup>駅舎」は、最初は駅として使われていました。昭和5年に津軽鉄道が走り始めてからそのまの姿で残っている建物はここだけです。

# し せき 史 跡

遺跡は日本全国に数多くありますが、この先も守っていく必要がある大事なものは、「史跡」として指定されます。指定されたあとは、壊されたり姿が変わらないように保存して、多くの人に知ってもらおうように活用します。その中でも、「<sup>くにしていしせき</sup>国指定史跡」として歴史の教科書に出てくる遺跡もたくさんあります。



## かわくらさい かわらじそうそん 川倉賽の河原地蔵尊 (市内金木町川倉)



イタコで有名な<sup>しもきたはんとう おそれざん</sup>下北半島の恐山と同じく、川倉賽の河原地蔵尊にもイタコがいます。また、お堂の中と外に約2,000体のお地蔵様がまつられています。これは、<sup>おさな</sup>幼くして亡くなった子どもたちを供養するためのものです。毎年旧暦の6月22日から24日に行われる例大祭の日には多くの人でにぎわいます。



そとめやちいせき  
五月女范遺跡 (市内相内)



お墓の様子

五月女范遺跡は、市浦地区にある今から約3,000年くらい前の縄文時代の終わりごろの遺跡です。遺跡からは、縄文人たちが捨てた大量の土器や石器、近くの十三湖からとって食べていたシジミ貝などが見つかりました。左の写真は、粘土を盛ったお墓です。昔の人たちも家族や友人が亡くなったときにはいねいにお墓を作ってあげていました。下の左側の写真は、縄文人の骨です。ちょっと怖いですが、骨からは年齢・性別・食べていたものなど、多くのことがわかります。隣の写真は、遺跡から見つかった土器です。縄文時代は生活で使うものは全て手作りです。縄文人たちの器用さがわかりますね。どちらも当時の人々や暮らしを知りためにとっても重要な手がかりです。



人骨の様子



遺跡から見つかった土器

五月女范遺跡は、市浦地区にある今から約3,000年くらい前の縄文時代の終わりごろの遺跡です。遺跡からは、縄文人たちが捨てた大量の土器や石器、近くの十三湖からとって食べていたシジミ貝などが見つかりました。左の写真は、粘土を盛ったお墓です。昔の人たちも家族や友人が亡くなったときにはいねいにお墓を作ってあげていました。下の左側の写真は、縄文人の骨です。ちょっと怖いですが、骨からは年齢・性別・食べていたものなど、多くのことがわかります。隣の写真は、遺跡から見つかった土器です。縄文時代は生活で使うものは全て手作りです。縄文人たちの器用さがわかりますね。どちらも当時の人々や暮らしを知りためにとっても重要な手がかりです。

ごしよがわらす えきかまあと  
五所川原須恵器窯跡 (市内持子沢、原子、前田野目)

須恵器は、窯の中で1,000℃以上の高温で焼かれた青灰色をした焼物のことです。この技術は、朝鮮半島から日本に伝わりました。

五所川原須恵器窯跡は、前田野目川支流の斜面を利用して造られています。現在まで40基が確認されており、中でも保存状態が良い13基が国の史跡として指定されています。



窯跡から出土した須恵器



発掘された窯跡



この窯跡は日本で一番北にあるんだよ！  
すごいね！

山の斜面を利用して窯を作ります。炎が下から上へと昇っていくことを利用して、1,000℃以上まで温度を上げて焼きます。

1,000℃以上するにはどのくらいの薪が必要かな？



窯の仕組み

窯跡では、平安時代中ごろの9世紀の終わりから10世紀にかけて須恵器が作られていました。窯跡は、場所によって大きく分けて4つのグループに分かれています。ここで作られた須恵器は青森県内はもちろんのこと、北は北海道全域、南は秋田県や、岩手県にまで流通していました。

と 三 い せき 跡



十三湊遺跡は十三湖西岸の十三にありす。ここは「奥州津輕十三湊」と呼ばれ、北日本を代表する港町として、広く知られていました。室町時代（今から約600年前）には「日之本将軍」と呼ばれた津輕の豪族、安藤氏がおり、北海道と京都を結ぶ日本海交易の拠点として、重要な役割を果たしていました。十三湊の発掘調査によって、人々の暮らしの跡や国内各地の焼物のほか、中国産や朝鮮半島産など外国の焼物もたくさん出土しており、非常に繁栄していたことがわかります。

右は、室町時代の十三湊の様子を再現した絵です。北海道から来たアイヌの人が昆布や鮭を、朝鮮半島から来た商人が焼物

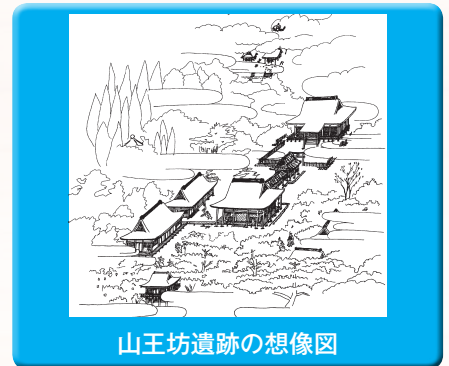


さん のう ぼう い せき 跡

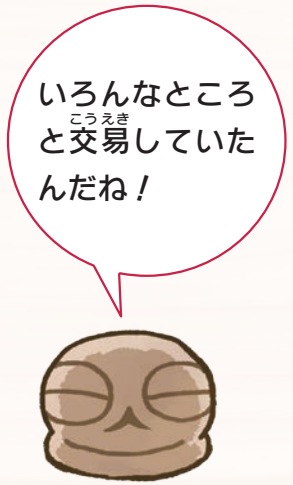
山王坊遺跡は、隣で紹介した十三湊遺跡と同じ時代の遺跡です。今は日吉神社と呼ばれ、昔から大切に守られてきました。



発掘調査の結果、神社跡、お寺跡、お墓跡など、建物の礎石（柱を支える石）が発見され、豪華な建物がたくさんあったことが分かりました。



室町時代は戦いが多く、人々は苦しみや悲しみを救ってくれる神仏に頼って生活していたことがわかる重要な遺跡です。





# 民俗文化財

民俗文化財は、人生の節目や季節ごとの行事をいう場合と、そのときに使う服や道具などをいう場合があります。どちらも普段の生活を示し、その移り変わりをあらわします。ここでは五所川原市の民俗文化財を季節ごとに追ってみましょう！

## 初夏 田植え

嘉瀬奴踊は、嘉瀬に伝わる踊りです。東北地方では田植えのときに、豊作を祈願して「田植え踊り」を踊る地域がありました。嘉瀬には現在もそれが残っています。嘉瀬奴踊は他の田植え踊りにはない動きがある珍しい踊りです。



嘉瀬奴踊 (市内金木町嘉瀬)



昭和30年ころの虫送り



現在の虫送り

田植えあと

田植えが終わると、その年の豊作と健康を願って虫送りが行われます。木彫りの竜の頭に、稲わらの胴体で作られた「虫」を若者がかついで、囃子とともに村中をねり歩き、村はずれの一番高い木の枝に「虫」をかけます。昔は五所川原市周辺の各集落で行われていましたが、現在では少なくなりました。



金木さなぶり荒馬踊 (市内金木町朝日山)

毎日の暮らしのなかであたり前だったものが、時代が変わって少なくなったり作られなくなることで、残ったものが大事な文化財になるんだね。



三縞こぎん

田んぼや他の作業をするときに着ていた服も、今では文化財です。「こぎん刺し」は麻を織った着物(こぎん)に、木綿の糸で模様を刺繍(刺し)した服です。こぎん刺しを作っていたのは女性たちですが、機械がなかったので全て手作業で縫っています。拡大した写真の白い糸の部分が「刺し」です。とても

細かく縫っていることがわかります。当時の女性たちは時間をかけて、丁寧にこぎん刺しを作っていたんですね。

模様は地域によって特徴があり、金木町周辺では三本の縞がある「三縞こぎん」が作られていました。三縞こぎんは他のこぎん刺しと比べて残っている数が少ないため、今ではとても貴重なものです。

夏まつり

五所川原の立佞武多は高さ20m以上、重さが16トンもありとても巨大！弘前の扇ねぶたや青森の人形ねぶたとも違う、明治の終わりに作られていた立佞武多を今に伝えています。今では五所川原にかかせない夏の祭りとなっています。



明治時代の立佞武多



明治時代の立佞武多



100年以上前から大きな立佞武多を作っていたんだね！



現在の立佞武多

お盆

江戸時代に入ると、津軽平野でとれるお米が十三湊から関西方面に船で運ばれていました。車や電車が無い時代は、大きいものや大量の物を運ぶために船が使われていました。十三の砂山踊りは船唄から変わったもので、関西方面からの船乗りたちが十三湊に来たときに唄ったものが地元の人々に流行し、盆踊りになったと考えられています。



十三の砂山踊り (市内十三)

お正月など

飯詰地区で行われている飯詰稲荷神社裸参りは、約350年前から続いています。地域の発展と無病息災（病気せず健康であること）や五穀豊穰（農作物がたくさん実ること）を願い、毎年12月31日にお酒や食べ物をお囃子を演奏しながら飯詰稲荷神社へ運びます。



飯詰稲荷神社裸参りの様子 (市内飯詰)

**獅子舞・獅子踊**

獅子踊は、祝いの席や正月など節目に踊られてきました。細かい違いはありますが津軽地方に広く見られます。

五所川原市では、「漆川獅子舞」「浅井獅子(鹿)踊」「飯詰獅子舞」の3団体があります。どれも200年以上の歴史をもつ重要な文化財です。もしかしたらみなさんも見かけたことや踊ったことがあるかもしれませんね。そうやって、自分たちの次の世代に伝えていくことはとても重要です。



昭和15年ころの浅井獅子(鹿)踊



踊りを披露する飯詰獅子舞 (市内飯詰)

天然記念物は、動物、植物及び地質鉱物で、学術上価値の高いもののことです。「ニホンカモシカ」や北海道阿寒湖の「マリモ」などがそうです。これらを天然記念物に指定して、保護することが目的です。



ホロムイチゴ (市内長富)

ホロムイチゴは北欧などの寒い地域でよく見られる植物です。青森県では昭和48年に発見されるまで記録がなく、貴重な植物として指定しています。

名木・古木は、市内にある木の中で樹齢が長く、大きくて立派な木を選んで指定しています。ここでは名木・古木から1本ずつ紹介します。



名木ヌマスギ (市内栄町)



古木イチョウ (市内梅田)

名木(めいぼく)・古木(こぼく)



## ■ その他

### ちょっと昔の五所川原

五所川原市教育委員会では、現在、明治時代から平成にかけての五所川原市を撮影した写真を集めています。写真はみなさんが見ることができない昔の街の様子を知るうえで、とても重要なものです。みなさんのお家にも昔の写真があるかもしれません。ぜひ一度探してみてください。下の写真以外にもいろいろな写真があるので、もっと見たいと思ったら、市のホームページをのぞいてみてください。



駅前通り（昭和の終わりころ）



本町 旧中三前（昭和の終わりころ）

今は無いアーケードがある！  
街の様子が大きく変わったんだね！



現在の駅前通り



現在の本町

## 五所川原市指定文化財一覧

### 五所川原地区

No	名称	区分	種類	指定・登録年月日	所在地
①	旧平山家住宅	国指定重要文化財	建造物	昭和53年1月21日	五所川原市湊字千鳥144番地1
②	飯詰八幡宮本殿	県重宝	建造物	平成6年1月21日	五所川原市飯詰字福泉148番地1
③	楠美家住宅	市指定文化財	建造物	平成12年11月2日	五所川原市持子沢隠川1695番地4
④	妙庵寺七面大明神宮殿	市指定文化財	建造物	平成13年12月20日	五所川原市飯詰字福泉29番地
⑤	阿部家住宅	国登録有形文化財	建造物	平成26年4月25日	五所川原市羽野木沢（個人宅）
⑥	梵鐘	県重宝	工芸品	昭和37年11月16日	五所川原市飯詰字福泉224番地（長円寺）
⑦	毛内翁土功之碑	市指定文化財	有形	平成12年11月2日	五所川原市錦町1番地5（久須志神社）
⑧	伊勢海利助追慕碑	市指定文化財	有形	平成12年11月2日	五所川原市錦町1番地5（久須志神社）
⑨	岩偶	市指定文化財	有形	平成30年10月25日	五所川原市大町21番地（立佞武多の館）
⑩	五所川原須恵器窯跡	国指定史跡名勝記念物	史跡	平成16年9月30日	五所川原市持子沢字隠川695番地2他
⑪	浅井獅子（鹿）踊	県指定無形民俗文化財	民俗	昭和37年1月12日	五所川原市浅井
⑫	虫おくり	市指定文化財	民俗	平成4年6月8日	五所川原市
⑬	漆川獅子舞	市指定文化財	民俗	平成12年11月2日	五所川原市漆川
⑭	五所川原甚句	市指定文化財	民俗	平成13年12月20日	五所川原市（立佞武多広場）
⑮	五所川原立佞武多	市指定文化財	民俗	平成22年12月22日	五所川原市大町21番地1（立佞武多の館）
⑯	飯詰獅子舞	市指定文化財	民俗	平成29年7月20日	五所川原市飯詰
⑰	飯詰稻荷神社裸参り	市指定文化財	民俗	平成30年10月25日	五所川原市飯詰
⑱	ホロムイイチゴ	市指定文化財	天然記念物	昭和50年8月27日	五所川原市長富（二ノ沢溜池内）
⑲	ヌマスギ	指定第1号名木	名木	昭和51年10月1日	五所川原市栄町（菊ヶ丘運動公園）
⑳	ツルマサキ	指定第2号名木	名木	昭和51年10月1日	個人宅
㉑	クロマツ	指定第4号名木	名木	昭和51年10月1日	五所川原市長富字鑑石無番地
㉒	ケヤキ	指定第6号名木	名木	昭和51年10月1日	五所川原市持子沢字笠野前357番地
㉓	シダレヤナギ	指定第7号名木	名木	昭和51年10月1日	五所川原市柳町
㉔	イチヨウ	指定第9号古木	古木	昭和51年10月1日	五所川原市梅田字平野16番地
㉕	クロマツ	指定第10号名木	名木	平成元年11月30日	五所川原市沖飯詰字男鹿159番地
㉖	千立山願昌寺念仏供養塔	市指定文化財	有形	令和5年3月23日	五所川原市字川端町10
㉗	御郡中惣絵図	市指定文化財	有形	令和5年3月23日	五所川原市字湊千鳥102-1

# 五所川原市指定文化財一覽

## ■ 金木地区

No	名 称	区 分	種 類	指定・登録年月日	所 在 地
26	太宰治記念館「斜陽館」	国指定重要文化財	建造物	平成16年12月10日	五所川原市金木町朝日山412番地1
27	旧西沢家住宅	国登録有形文化財	建造物	平成20年3月7日	五所川原市金木町朝日山411番地5
28	津軽鉄道旧芦野公園駅	国登録有形文化財	建造物	平成26年12月19日	五所川原市金木町芦野84番地171
29	川倉賽の河原地蔵尊	市指定文化財	史 跡	昭和57年8月10日	五所川原市川倉七夕野426番地1
30	嘉瀬奴踊	県指定無形民俗文化財	民 俗	昭和44年12月15日	五所川原市金木町嘉瀬
31	金木さなぶり荒馬踊	県指定無形民俗文化財	民 俗	昭和56年9月26日	五所川原市金木町朝日山
32	金木町玉鹿石	県天然記念物	天 然記念物	昭和55年1月24日	五所川原市金木町喜良小田川国有林
33	三縞こぎん	市指定文化財	有 形	令和4年1月26日	五所川原市

## ■ 市浦地区

No	名 称	区 分	種 類	指定・登録年月日	所 在 地
34	十三・湊迎寺の五輪塔	市指定文化財	有 形	平成13年3月2日	五所川原市十三土佐1番地298(市浦歴史民俗資料館)
35	相内・蓮華庵の板碑	市指定文化財	有 形	平成13年3月2日	五所川原市相内(蓮華庵境内)
36	人面形浅鉢	市指定文化財	有 形	平成30年10月25日	五所川原市大町21番地1(立佞武多の館)
37	十三湊遺跡	国指定史跡名勝記念物	史 跡	平成17年7月14日	五所川原市十三地内
38	山王坊遺跡	国指定史跡名勝記念物	史 跡	平成29年2月9日	五所川原市相内岩井他
39	五月女蒨遺跡	市指定文化財	史 跡	平成29年7月20日	五所川原市相内地内
40	相内の虫送り	県指定無形民俗文化財	民 俗	平成23年4月6日	五所川原市相内
41	相内の坊様踊り	市指定文化財	民 俗	平成14年2月28日	五所川原市相内
42	十三の砂山踊り	市指定文化財	民 俗	平成14年2月28日	五所川原市十三
43	十三湖の白鳥	県天然記念物	天 然記念物	昭和35年3月26日	十三湖
44	磯松の一本松	市指定文化財	天 然記念物	平成13年3月2日	五所川原市磯松磯野54番地

- 発行年月日 令和5年3月30日
- 編集・発行 五所川原市教育委員会
- HPアドレス <http://www.city.goshogawara.lg.jp>
- 印刷所 有限会社 アート印刷

(C)五所川原市教育委員会 岩偶イラスト：福土杏奈

